

真菌性眼内炎の臨床像と発症因子の関連における

後ろ向き横断的研究に関するお知らせ

国立研究開発法人 国立国際医療研究センター病院 眼科では、以下にご説明する研究を行います。この研究への参加を希望されない場合には、研究不参加とさせていただきますので、下記のお問い合わせ先にお申し出ください。お申し出になられても、いかなる不利益も受けることはございませんのでご安心ください。未成年者の方では、保護者さん等からの研究不参加のお申し出やお問い合わせに対してもご対応いたします。

■研究目的・方法

真菌性眼内炎 (fungal endophthalmitis) は真菌が眼内に移行し、眼内炎を生じて視力障害をきたす疾患です。特に外科手術や外傷後に経中心静脈高カロリー輸液のため静脈内留置カテーテルが留置されている患者さんでは、皮膚に常在する真菌により真菌血症を生じ、眼球内に感染病巣を形成し真菌性眼内炎を生じることがあります。真菌性眼内炎は細菌性眼内炎と比べ進行は遅く、早期発見により治療が速やかに施行されれば視力予後は良好とされていますが、診断治療が遅れると、網膜剥離や緑内障、広範な網膜の壊死を生じ予後は極めて不良となります。

今回、過去に真菌性眼内炎と診断された患者さんの診療録をもとに、真菌性眼内炎の臨床像と発症因子を調査し、その関係について検討することで、発症予防や早期発見による視力予後の向上に貢献できると考え、研究を立ち上げました。

■研究期間

倫理審査委員会承認後～2023年3月31日

■研究の対象となる方

2011年1月1日～2020年12月31日に国立国際医療研究センターにおいて、真菌性眼内炎と診断された方

■研究に用いる試料・情報の種類

上記の対象期間中に診療録に記録された診療情報の中から、患者情報（現病歴、既往歴、使用薬剤、静脈内留置カテーテルや尿管カテーテルの使用歴）、検査所見（血液検査所見、放射線所見）および眼科検査所見（視力、眼底、光干渉断層計所見）などを研究に使用させていただきます。使用に際しては、政府が定めた倫理指針に則って個人情報厳重に保護し、研究結果の発表に際しても、個人が特定されない形で行います。

■利益相反について

利益相反の状況については NCGM 利益相反マネジメント委員会に報告し、その指示を受けて適切に管理します。（本研究に関する研究全体及び研究者個人として申告すべき利益相反の状態はありません。）

■研究計画書等の入手・閲覧方法・手続き等

あなたのご希望により、この研究に参加してくださった方々の個人情報の保護や、この研究の独創性の確保に支障がない範囲で、この研究の計画書や研究の方法に関する資料をご覧いただくことや文書でお渡しすることができます。ご希望される方は、どうぞ記載のお問合せ先にお申し出ください。

■個人情報の開示に係る手続きについて

本研究で収集させて頂いたご自身の情報を当院の規定に則った形でご覧頂くことも出来ます。ご希望される方は、どうぞ記載のお問合せ先にお申し出ください。

■研究責任者：

国立研究開発法人国立国際医療研究センター 眼科 八代 成子

■お問い合わせ先

【施設名】 国立研究開発法人国立国際医療研究センター

【住所】 東京都新宿区戸山1-21-1

【電話番号】 03-3202-7181（代表）

【担当者所属・氏名】 眼科 八代 成子